

World Congress of Performance Analysis of Sport XIIにおける研究発表

沼田 薫樹*

はじめに

今回、2018年9月19日から9月23日の日程で、クロアチアのオパティアにて開催された World Congress of Performance Analysis of Sport XII（以下 WCPAS）に参加し、これまでに行ってきた研究の成果の一部を発表する機会を頂いたので、学会大会の様子及び発表内容について報告する。

WCPAS について



学会会場（アンバサダーホテル）の外観

WCPAS は世界の Performance Analysis の最先端の研究を行っているニック・ジェームス教授をはじめ、世界で活躍する様々な研究者、コーチ、トレーナーやその他の専門家などが集まり研究成果の発表及び情報交換をする学会である。今学会のメインイベントは2018ワールドカップで準優勝をしたクロアチアナショナルチームのヘッドコーチである Zlatko Dalić をはじめとするサッカーの話題である。その他にも、ゲーム分析やトレーニング効果、測定評価など、様々な領域について、新しい研究結果や発見、アイデア等を報告するものであり本年度が12回目の開催となる。

WCPAS には初の参加であるが、その学会誌に

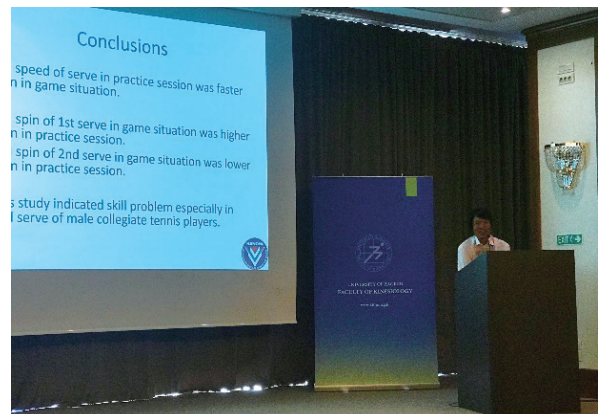
は自身の研究で参考にする文献が多く掲載されており、本学会にも参加したいと考えていたところ高橋准教授からお話を受け、参加の機会を頂いた。

本学会に参加することで、バレーボールだけではなく、他のスポーツの新しい測定法や機器などの情報が得られた。また、ユースやエリート選手の育成方法やシステム、トレーニングなど様々な研究報告の知見からコーチングに活かすこともできると考えられる。

研究発表について

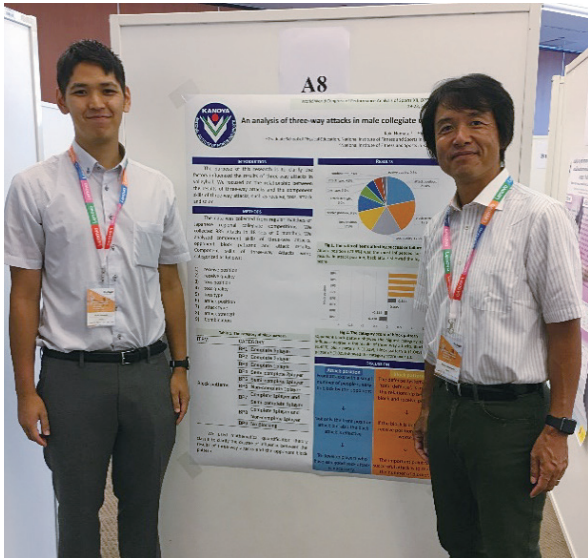
本学からは筆者の他に、高橋准教授が発表した。高橋准教授はテニスにおけるサーブのボールスピード及び回転数の練習時と試合時の比較について発表した。

筆者は審査の結果ポスター発表のアクセプトを受けた。発表演題は、「An analysis of three-way attacks in male collegiate volleyball」であった。博士論文のテーマの一つである、バレーボールの攻撃結果に関わる技術要因を探索する研究である。筆者の発表は、技術・戦術が中心のセッションで



高橋准教授の口頭発表の様子

* 鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程1年



発表ポスター前にて
(左：筆者，右：高橋准教授)

行われ、筆者のほかにはワールドカップの身体的要因の違いや、青少年のスタンディングジャンプの有効性といった発表が行われた。筆者の発表に対しては、3段攻撃について、項目の内容について質問があった。また、発表終了後にも、バレーボールの研究について交流を深めることができ、研究に関するアイデアを頂いたことで、自分の研究を進める大きなきっかけとなった。

おわりに

筆者にとって国際学会での発表は初めてであり、非常に緊張しながらの発表であったが、私自身の現在の英語力を知ることが出来、さらなる向上が必要であると感じた。今後も積極的に国際学会に参加し、自身の研究内容を深めるとともに、語学力についても海外の研究者とより深くディスカッションできるようにしたいと考えている。最後に本学会大会への参加・発表機械を与えてくださった松下学長を始め、関係者各位に厚くお礼を申し上げる。